



平成22年 冬 第22号

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

あかり

A K A R I



看護師さんを
募集しています

年頭に当たって～病院とアート～	1
てんかんの外科治療について	2
臨床検査について/国立病院総合医学会に参加して	3
てんかんに関する情報がそろっています/自己紹介	4
就労に関する進路選択クリティカルパスのご紹介	5
発達支援室の紹介	5
院内大ボーリング大会/てんかん看護セミナーを開催して	6
「ママ・パパのリフレッシュタイム」開催	6
てんかん外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ	8
当院へのアクセス/イベント情報/本	8

年頭に当たって～病院とアート～

新しい年を迎えました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

病院にアートという言葉はそぐわないと思われるかもしれませんが。アートとは技巧、芸術のことです。

アートはこころをなごませ、感動を引き出します。日常を振り返り、新しい試みをおこす契機を与えてくれます。そのようなアートが病院のなかにあることは、そこを訪れる人、そこで多くの時間を過ごす人にとって大切です。絵画や音楽に限らず、美しい花や小さな空間の装飾もアートになるでしょう。また、病気をもちながら、あるいは病気をもつことによってアートを創り出す人もいて、それをサポートすることができれば素敵です。

病院は、病気を見極め、治し、病いを癒し、手をさ

しのべるところです。そこにいるスタッフはこのための技を専門にしています。しかし私たちはこの技を維持するのではなく、さらに磨きたいと常に願っています。この技を極めた、患者さんに本当に愛される医療は、アートです。

医療の技には、知識や技術だけではなく、言葉やふるまい、心のこもった雰囲気なども含まれています。癒しに通じる空間はただちに感じ取ることができます。また、医療の技には時間をかけて行うものもあります。長い時間のなかで、患者さんに寄り添いながら良い医療を行いたいと私たちは願っています。

現状はまだ遠いところにいますが、私たちは一歩でもアートに近づくために、研鑽・研究を心がけています。至らない点は、私たちのためにどうぞご指摘ください。

(院長 井上 有史)

てんかんの外科治療について

はじめに

てんかんに手術？と思う方もいらっしゃるかもしれませんが。てんかん外科の歴史は古いのですが、現在のようなてんかん外科が日本で行なわれるようになったのはここ20年ほどのことです。現在、当院では年間約70人の患者さんにてんかん原性領域の切除手術を行なっていますが、その概要を簡単にお話します。

どのような方が手術されているか

外科治療のおおまかな適応基準として

- ①脳の限局した領域から発作が起きていること
- ②お薬で発作がおさえられない状態が2年以上続いていること
- ③発作が改善すれば、生活の質(QOL)の改善が期待できること
- ④手術により大きな後遺症がでないと予測されること
- ⑤患者さんやご家族が手術の意義をよく理解していること

があげられます。

逆に言うと、脳の何箇所からも発作がでている場合や、発作が運動や感覚、言語など、脳の重要な働きに関わる場所からでている場合、手術するかどうかについては、慎重に考えねばなりません。

手術時期については、脳腫瘍をもつ人や、出生早期から発作の頻発によって発達障害が障害されるおそれのあるお子さんでは、2年を待たずに、早めに手術適応を検討する必要があります。

以前は、薬物治療をとことん行なっても発作がよくなる場合の最終的な治療手段として手術が考えられてきました。しかし、診断の進歩とそれに伴う手術成績の向上により、患者さんによっては、早めに外科治療を行なったほうがよいのではないかと考えられるようになってきました。すなわち、側頭葉てんかん(内側側頭葉てんかん)や、限局した器質病変(腫瘍や皮質形成異常)をもつ患者さんでは手術成績がよいことから、早めに外科治療の適応が検討されるようになってきました。そのような観点から、てんかんと診断された患者さんでは早めに脳のMRI検査を行い、てんかん発作の原因となるような病変がないかどうかを調べることが重要といえます。FLAIR法というMRIの撮り方がてんかん発作の原因となる皮質形成異常などの病変を見つけるのに適していますので、一度この方法でMRIをとってもらうことをお勧めします。

手術へのステップ

お薬の治療を続けているがなかなか発作がよくなりません。手術の可能性を探りたい、という方では、まず、当院でステップ1と呼んでいる入院にて、ビデオ脳波同時記録、脳の画像診断(MRI、CT、SPECTなど)、神経心理検査などを行ないます。薬物治療についても再検討し、発作が真に難治なのか、不適切な薬物治療などによるみせかけの難治なのかを見極めることも重要です。また、精神・心理学的評価や、患者さんの生活背景を充分把握することが非常に重要です。

ステップ1の結果をよく検討し、手術適応があるかどうかの判断がなされます。手術適応があると判断された患者さんでは、直接切除手術(ステップ3)に進む場合、および、慢性頭蓋内脳波記録(ステップ2)を経て、最終的に切除手術にすすむかどうかをきめる場合があります。慢性頭蓋内脳波は、脳の表面や内部に直接電極を入れて脳波を調べる検査です。

手術成績

手術適応(どのような患者さんを手術するのか)と手術成績(手術でどれくらいよくなったか)は表裏の関係にあります。すなわち、手術でよくなる可能性の高い方では積極的に手術適応を考慮すべきですし、手術してもよくなる可能性が低い方、あるいは術後に後遺症がおこる懸念が高い方では、慎重に考慮すべきです。

手術成績については、側頭葉てんかんと、それ以外のてんかん(側頭葉外てんかん)にわけて考えるのが一般的です。

側頭葉てんかん、特に内側側頭葉てんかんの手術成績はすぐれており、約8割の患者さんが発作から解放されています。

一方、側頭葉外てんかんの手術成績は、側頭葉てんかんよりはやや劣りますが、MRIで病変の検出された患者さんでは約7割の方が発作から解放されています。側頭葉外てんかんで、MRIで病変を認めない方の手術成績は思わしくなく、発作から解放される方の割合は5割にも満たないのが現状です。実際に手術に進むかどうかは、個々の患者さんにおいて、手術によって良くなる見込み、悪くならないかどうか(大きな後遺症がでないかなど)など、手術による得失をよく考えた上で、判断することになります。

包括医療の重要性

手術は単に発作を止めるだけでなく、それに伴うQOLの向上を究極的には目指すものです。ですから、手術する、しないについては、ただ発作がよくなるかどうかという医学的な事柄だけでなく、患者さん個々の全体像をよくみて、手術が患者さんのQOLの向上に結びつくかどうかを、術後の発作予後のよくなかった場合も想定して判断する必要があります。当院では、脳外科医だけでなく、看護師、精神科医、臨床心理士、ソーシャルワーカー、リハビリテーションなど、多職種チームによる包括医療を目指しています。実際にそのような医療が患者さんにとって必要だからです。手術は決して治療のゴールではなく、その後も続く治療の中での、大きな通過点として位置づけるべきものです。術後に発作が再発し、ショックで落ち込む方もいるでしょう。また、手術で発作がなくなったが、自立した生活を送れるようになるためにカウンセリングや就労支援が必要な方も少なくありません。当院では、心理・社会的な側面も含めて、術後も継続的に支援が行なえるようにこころがけています。

(医師 臼井 直敬)

臨床検査について

具合が悪くて病院へ行くとほとんどの施設では診察の前に検査を受けさせられると思います。一口に検査と言ってもその範囲は広く種類も多くてよく解らないのが患者の皆様の実感かと思います。

と言うわけで、できるだけわかりやすく解説し、患者の皆様に検査の必要性をご理解していただきたいと思います。

検査は大きく分けて、①検体検査、②生理機能検査、③画像診断検査の3つに分けられます。

①検体検査：血液検査、生化学検査、免疫・血清学的検査、一般検査、細菌検査、病理学的検査等

②生理機能検査：心電図、心音図、筋電図、神経伝導速度、脳波、誘発電位超音波エコー（心エコー、腹部エコー）、呼吸機能検査等

③画像診断検査：MRI、CT、レントゲン撮影等。

このうち私たち臨床検査技師が携わっているのが①と②の検査であります。

今回は①の検体検査について簡単に説明させていただきます。検体検査では患者の皆様の血液、尿、便、穿刺液、細胞、組織等を採取して調べます。

血液検査：主に赤血球数、白血球数、血色素濃度、血小板数、ヘマトクリット、網赤血球、白血球5分類%（好中球、リンパ球、好酸球、好塩基球、単球）等血液中の細胞成分を測定する検査で、貧血や白血病等のスクリーニングに必要な検査と血液凝固検査といってPT（プロトロンビン時間）、フィブリノーゲン、APTT（活性部分トロンボプラスチン時間）等血液が

固まって出血を防ぐ能力に異常があるかどうかを調べる検査（血友病の診断等）の2つがあげられます。

生化学検査：AST、ALT、ALP等の酵素活性やBUN、クレアチニン、総タンパク、アルブミン、アンモニアといった項目で、肝機能や腎機能、動脈硬化、高脂血症等の診断に必要な検査です。

免疫・血清学的検査：感染症（B型肝炎ウイルス抗原やC型肝炎ウイルス抗体、梅毒等への感染の有無）、自己抗体（慢性関節リウマチ等の診断）の他に血液型、不規則抗体、輸血の血液が患者さんの血液と反応して副作用を起こさないかを調べる交差適合試験等があります。

一般検査：尿中の糖・タンパクの存在やpH等を調べる定性検査、細胞等を見る尿沈渣の鏡検があり、腎機能、膀胱炎、尿路感染症等の診断に必要です。さらに便中の寄生虫卵検査、髄液検査、穿刺液検査等もあります。

細菌検査：咽頭、喀痰、尿、血液、髄液、便等に病原性の細菌がいるかどうかを調べる検査（病原性細菌に感染しているかどうか）。

病理学的検査：体の組織（臓器の一部や体液）の細胞を調べる検査です。おもに組織の病変（炎症、委縮、ガン等）の診断に必要です。

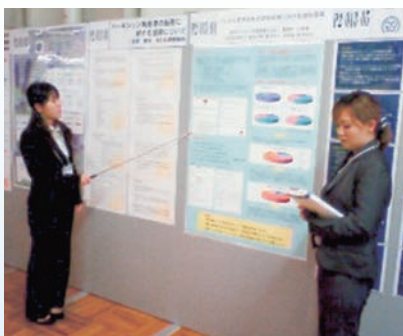
以上、患者の皆様には検査の必要性をご理解いただけましたら幸いです。

さらにそれぞれの項目の詳細につきましては当院外来に資料を用意しておりますので、そちらもご覧ください。

（検査科一同）

第63回 国立病院総合医学会に参加して

A3病棟 曾根 千尋



今回、私たちは国立病院総合医学会で看護研究を発表するため、宮城県仙台市へ行ってきました。私たちが発表した研究は、まず、て

んかんの焦点切除手術をした患者様へ退院後の生活を安全に安心して過ごして頂くために、お薬を継続して内服して頂くことの必要性や、どの程度の運動をして良いかなどの日常生活での注意点をまとめパンフレットを作成しました。そして、パンフレットを実際に患者様に退院

前にお渡しし、焦点切除後三ヶ月入院の時に患者様や指導をした看護師にアンケートを行いパンフレットの有用性を評価しました。この研究をポスターにまとめ、発表をしました。その結果、“ポスター賞”という賞を頂くことが出来ました。とても嬉しかったです。発表終了後は、仙台市内で伊達政宗像を見学し牛タンを食べました。また、翌日には日本三景の一つである松島観光をしてきました。患者様、病棟のスタッフのご協力により、とても有意義で思い出に残る二日間となりました。



てんかんに関する情報がそろっています!!



おかげさまで、てんかん情報センターはこれまで多くの方々に利用していただいております。

てんかんに関する情報がそろっていますので、これから多くの方々に利用していただきたいと思います。

～こんなことはありませんか?～

てんかんに関する本を探している

てんかんについて調べたいことがある

てんかんについての情報を集めたい

…と考える方、ぜひ外来管理棟1階の

てんかん情報センターへお越し下さい。

～てんかん情報センターではこんなことができます～

●てんかんに関する書籍、雑誌の閲覧・貸し出し

(書籍の貸し出しは、入院中の方とご家族の方に限ります。1名様1冊2週間まで)

●てんかんに関するビデオ・DVDの視聴

●インターネットによる情報収集(パソコンが2台あります)

…等ができます。



てんかんに関する書籍は約230冊、ビデオ約20本、DVD約30本、てんかん協会機関紙「波」(2004年～)等々が揃っています。

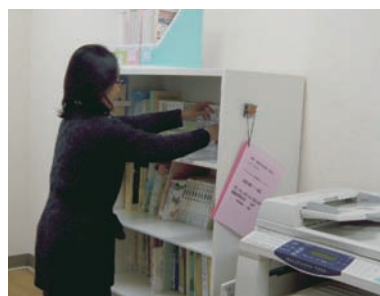
※開室時間は平日13時～15時までです。
開室時間に返却ができない場合には返却ポストもありますのでご利用下さい。

～ぜひ、てんかん情報センターへお越し下さい♪～

てんかん情報センターでは、3名のボランティアの方々皆さんの来室をお待ちしております。

●井上さん

書籍は種類によって、少しずつ説明の仕方や表現が異なるので、読んでみて「難しい」と感じるものもあれば、「わかりやすい」と感じられるものもあります。



ぜひ色々な書籍を手にとって、読んでみて欲しいと思います。そして、ご自身に合った書籍を見つけ、てんかんについて理解を深めていただけたらと思います。

●山田さん

てんかん情報センターを利用される患者さんや、ご家族の方から、書籍について質問を受けることがあります。戸惑うこともあります。一緒に探しながら、皆



さんが必要な情報を得られるよう、お手伝いをしています。ぜひ、気軽にてんかん情報センターに立ち寄って下さい。そして気軽に話しかけて下さい。

●宮崎さん

てんかん情報センターを利用される患者さんと何気ない会話をはじめ、入院生活や、病気に対する不安な気持ちなども聞かせてもらうことがあります。てん



かん情報センターが少しでも息抜き・休息の場になればと思っています。

自己紹介

医師

最上 友紀子

出身 ■ 大阪府大阪市 趣味 ■ 水泳、スキューバダイビング

診療分野 ■ 小児科学一般、小児神経学

マイペースでのんびりです。でも、体力には自信あり!!

患者さん、ご家族にとって、一番いい状態を作っていくお手伝いができればと思っています。よろしくお願いします。

医師

山崎 悦子

出身 ■ 滋賀県 趣味 ■ 読書

診療分野 ■ 神経内科、てんかん

今は主に外来で勤務しています。患者さまの小さな声にも耳を傾けるよう心がけています。

就労に関する進路選択クリティカルパスのご紹介

リハビリテーション科 作業療法士 菅原 洋平

てんかんをもつ人にとって、仕事と生活の両立は関心の高いことだと思います。症状の変化や職場等の環境の変化に順応しながら仕事を続けていくことは大変なことです。自分に合った仕事を用意されていれば良いのですが、なかなかそうはいかないのが現実です。

仕事と生活を両立していく為には、まず自分のことを良く知って頂くことが大切だと思います。当院では、自分の特性を知り、自己管理をしていくための準備が出来るよう、第三者によって客観的に能力の評価をするクリティカルパスを実施しています。自分はどんなことでやる気になるのか、どんなことが苦手で、苦手なことを前にした時にどう対処すればいいのかを知り、仕事を通じて自分を管理していく考え方を身に付けて頂くことが目的です。クリティカルパスとは、医療スタッフと患者様が共通の目標に向かってあらかじめ設定された検査や治療に取り組むシステムです。

実際のスケジュールは以下のようなパスシートに従って進めていきます。このパスは5日間のスケジュールが組まれています。まず初日は、医療福祉相談室のソーシャルワーカーとの面談で、今までの職業歴や生活歴と一緒に振り返り、自分がどのようなことに取り組んできたのかを確認します。2日目から4日目は、理学療法士と作業療法士による客観的な評価を行ないます。理学療法では、仕事に必要

就労に関する進路選択クリティカルパスの進捗シート

項目	1日目(初診)	2日目(理学療法)	3日目(作業療法)	4日目(作業療法)	5日目(最終評価)
自己管理の準備	自己管理の準備(自己管理の準備)	自己管理の準備(自己管理の準備)	自己管理の準備(自己管理の準備)	自己管理の準備(自己管理の準備)	自己管理の準備(自己管理の準備)
能力評価	能力評価(能力評価)	能力評価(能力評価)	能力評価(能力評価)	能力評価(能力評価)	能力評価(能力評価)
進路選択	進路選択(進路選択)	進路選択(進路選択)	進路選択(進路選択)	進路選択(進路選択)	進路選択(進路選択)

※ 各項目に、具体的な検査項目や評価項目が記載されています。
 注1: 入院期間については、病状や生活歴を考慮して決定いたします。

な基礎体力があるかを判定する検査を行ないます。作業療法では、一般職業適性検査による作業能力の測定を行ないます。5日目に、それぞれの結果をもとに再びソーシャルワーカーと面談を行い、自分の特性をどのように理解したか、今後就職に向けてどのように取り組んでいくかを検討します。

さらに詳細に自分の状態を知りたい方や継続的な支援を希望される方は、パス終了後主治医の指示によって専門職種が個別対応をしていきます。

関心のある方は、まずは主治医にご相談下さい。仕事と生活の両立の為、自己管理の準備として是非ご利用ください。

発達支援室の紹介

発達支援室では、毎日の家庭や保育園・幼稚園または学校での生活の中で、1)人との関わりが上手くできない、2)いろいろな場面で周囲のことが気になって気が散りやすく落ち着いて物事に取り組めない、3)国語や算数などの学習においてどんなに覚えようとしても理解できないなどの症状があって困っている子どもさんに対して、正確な発達診断を行いそれぞれの子どもさんに対して成長しやすい発達環境を整えていくことを提案・助言しています。これらの子どもさんの症状は、医学的には自閉性障害(自閉症)、AD/HD(注意欠如/多動性障害)、LD(学習障害)などの発達障害によると考えられています。このような発達障害の症状をもつ子どもさんは平成15年の全国調査では通常の小・中学校に6.3%いることが分かっています。この数値は、1クラスで考えると2~3人の児童生徒に当たります。てんかんの患者さんでは発達障害の合併率がやや高いことも分かっています。発達相談をお受けしている対象は、てんかんや中枢神経疾患に発達障害を合併している患者さんと、地域の保育園・幼稚園や小・中学校で発達障害が疑われる子どもさんです。発達相談の具体的な内容は、小児科医または

精神科医による医学的検査(脳波、MRI等の神経生理・画像検査による脳内の器質的または機能的障害の精査、血液・生化学検査等)を行った上で、心理療法士による発達及び行動評価(知能検査や学習能力等の検査、ごっこ遊びやゲーム等による行動観察、保護者からの成長経過の聴き取りなど)を行います。

これらの結果を総合的に判断して発達診断を行います。保護者には子どもさんの発達障害の説明と家庭での養育または保育園や学校等での対処法について相談や助言等を行います。また、必要に応じて、地元の保育園や学校等の指導機関に発達診断結果や心理検査結果等を報告し、子どもさんやご家族が地域で適切な発達援助が受けられるように支援しています。

(発達支援室主任 杉山 修)



院内大ボーリング大会

お世話係 医療安全管理係長 高木 良子

当院では、職員間の交流を図るためと日頃の運動不足解消を目的とし、今年から大ボーリング大会を開催しています。10月すでに3回行われましたが、参加人数はのべ159名に達しています。

1チーム3名の職場対抗で行っていますが、様々な職場から多くの方が参加しています。

病院内では滅多にお目に掛かることのできない、他職種の方の素顔を垣間見ることができました。

日頃の憂さと恨みを晴らしているのではと思うほど力を

込めボールを投げる人、フォームがきれいなのになかなかピンが倒れない人、投げた後恥ずかしそうにみをよじる人、ガーターばかりでも、とてもハイな人など様々で、みんなおにぎり1個の夕食で2ゲーム楽しむことができました。

表彰式では優勝、準優勝の他に院長賞、看護部長賞、事務部長賞も用意され、個人の力量とは関係なく、運で賞品をもらった人もいました。そしてまた次の大会での優勝をねらい密かに練習します。

てんかん看護セミナーを開催して

副看護部長 松山 みどり

当院は、平成16年から毎年、全国の看護師を対象に「てんかん看護セミナー」を2日間開催しています。平成21年度は、参加者33名で行いました。北は山形から南は鹿児島まで全国からてんかん看護に携わる看護師が患者様への対応を少しでも良いものにしたいという思いで集まっています。

1日目は、疾患、看護、心理検査、抗てんかん薬等についての講義、2日目は、リハビリテーション、社会福祉、外科治療、看護について講義があり、午後は、病棟見学を行っています。

最後に、講義、見学を通しての意見交換では、自施設で困っている問題点が、解決できたようでした。アンケートでは、てんかんについて知らなかったことを多く学ぶことができた、最新の技術や知識を得ることができたなど2日間の研修が学びあるものとなったことが伺えました。

今年で6回目の開催となり、毎年30名から40名の参加者があり、てんかん患者様の診療を行う施設のてんかん看護のレベルアップが図れていると思います。

「ママ・パパのリフレッシュタイム」開催

小児病棟副看護部長 中田 美紀

子供と一緒に長い入院生活を送っているお母さん。そんな頑張っているお母さんに「少しでも自分だけの時間を作ってあげられたら。」という思いの中、全病棟の看護師、保育士の協力を得て、平成21年の6月から開始しました。どうなるかスタッフもお母さんも子供もドキドキでした。お母さんと離れる約90分の間、子供達はオモチャの部屋と、泡がブクブクでたりキラキラする光の部屋に別れます。始めは不安そうだった子供達も、時間



が経つとオモチャと看護師を独り占め。とても嬉しそうに遊びます。いつも甘えてばかりの子も、年下の子の面倒を見て、意外な一面に私達を驚かせてくれます。光の部屋では、まどろんだり、じっと天井の動く空を見つめていたり様々です。リフレッシュを終えて笑顔のお母さんがお迎えに来ると、子供達もまたニコニコ。お母さん達はどんなリフレッシュをしてきたのかな？これからも、沢山の笑顔を作っていきたいです。

看護師さんを募集しています！

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り ②非常勤職員（外来、B型通園）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？再就職支援、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-bu@szec.hosp.go.jp

てんかん外来再診の診療体制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室	中村	中村	臼井桂		臼井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今井		井上	今井	松田
第4診察室		鳥取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	池田浩	池田浩	寺田	寺田
第6診察室	芳村	山崎	山崎	芳村	馬場好
第7診察室		小出		大谷	大谷
第8診察室			高橋		
第9診察室	重松				重松

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	溝口	溝口	溝口	馬場国	溝口
第11診察室	杉浦	小尾	山崎		小尾

特殊外来

転倒予防外来	随時	溝口、小尾
物忘れ外来	随時	溝口、小尾
遺伝相談	適宜	高橋、溝口、小尾

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@szec.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。

上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■

溝口 功一	寺田 清人	藤井 千穂子
佐藤 ひろ美	家田 直幸	大石 徳幸
児玉 和久	中島 賢二郎	大堀 友子
中澤 光代	長田 英喜	

発行 ■ 平成 22 年 2 月 1 日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,625円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス

access

バスをご利用の場合	JR 静岡駅前、北口バスターミナル 2 番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・国立神経医療センター」行に乗車、終点の“国立神経医療センター”で下車。全所要時間は約 30 分。片道料金は大人 350 円、小児 180 円。
タクシーをご利用の場合	JR 静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約 20 分。料金は 2,200 円程度。
お車の場合	東京方面から 東名高速清水インターより、静岡バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約 20 分。
	名古屋方面から 東名高速静岡インターより、国道 1 号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約 30 分。



イベント情報

●てんかん専門職セミナー【専門職の為のてんかんセミナー(成人のてんかんについて)】

2010年2月19日(金)

於 ◆ 静岡てんかん・神経医療センター 3 階講堂

本

●アトラス てんかんの発作間欠時・発作時脳波を読む【診断と治療社、2007年】

てんかん症候群におけるあらゆる病態の脳波記録を網羅的に掲載し、それぞれについて詳細でわかりやすい脳波判読のしかたを解説しています。

●てんかん症候群：乳幼時・小児・青年期のてんかん学【中山書店、2007年】

世界で愛読されているてんかんの教科書です。典型的な発作 DVD が付属しています。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟 1 階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)